

AVNの世界にパラダイムシフトはあるのか？

Will There Be a Paradigm Shift in the World of AVN?

取締役
鈴木 恵司
Keiji Suzuki



世はIT時代である。パソコンや携帯電話の普及には目覚しいものがある。製品と言うハードウェアが世の中に溢れているだけではない。ソフトウェアやサービスに目を転じれば、世の中が劇的に変化している事が分かる。パソコンや携帯電話を活用したインターネット関連ビジネスがものすごい勢いで拡大し、ビジネスモデルが大きく変わってしまった。インターネットによる株のデイトレーディングの隆盛をだれが予想しただろうか？あるいはネット通販やネットオークションの普及をだれが予想しただろうか？まさに世の中は我々の予想をはるかに越えて変化している。

物作りに話を移そう。上記のような劇的な変化は、一言で言えば、インターネットとコンピュータの技術的進歩の賜物であると言える。しかし、この発展の歴史が、一方では、いわゆる情報処理のモデルについてある種のパラダイムシフトを引き起こしている事を指摘したい。今、20年前にさかのぼれば、世の中はメインフレーム全盛の時代であった。情報は全てメインフレームと呼ばれる汎用大型コンピュータで「集中」処理されていた。それから10年後、インターネットとパソコンの急速な発展に伴って、今度は「分散」処理の時代となった。個人のパソコンに大量の情報が蓄積され、インターネットを介して相互に接続され「分散」処理されるようになった。しかしその反動として、コンピュータウィルスの脅威や個人情報の漏洩問題などが発生、インターネット社会の問題としてマスコミに取り上げられた事例には列挙にいとまもない。この反動で、今また「分散」から「集中」への流れが始まっている。ハードディスクを持たない新しいパソコン端末の登場や、大型基幹サーバを直接インターネットに接続して「集中」処理する動きがそれである。要するに、

I Tの世界では、情報の取り扱いについて「集中」から「分散」、さらにまた「集中」へと言うパラダイムシフトが繰り返し起きている事になる。

それでは本論に移ろう。我々の主力製品であるA V Nの世界はどうであろうか。もともとA V Nは車に搭載されたパソコンのような物である。カーナビゲーションやオーディオ／テレビ等のエンターテインメントなどの多くのサービスをA V Nがドライバに提供している。また、今後は車両診断やセキュリティなどの安全・安心のためのサービスもモニタリングするなど、A V Nはますます高機能化・多機能化すると予測されている。しかし、一方ではネットワークがより高速になるに伴って、最新の地図情報やマルチメディアコンテンツなどが、ネットワークを介して直ちにA V Nに配信されるようになるであろう。また、反対に「分散」した車両の診断情報はネットワークを通じて自動的にセンターに送られリモートで「集中」監視されるようになるであろう。このときに、A V Nとセンターシステムの役割分担はどのようなものになるであろうか？言い換えれば、I Tの世界で起きたような、情報における「分散」から「集中」のパラダイムシフトが起きるであろうか？また、そのときに求められる望ましいA V Nの姿とはどのようなものであろうか？

今後もA V Nで業界をリードして行くために、この流れを注視して行きたいと思う。